

MACC^{マツク}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第17号

2011年6月30日発行

荒川区が進める「MACCプロジェクト」は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を活かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することで、荒川区の産業振興（商品開発や販路拡大など）を図ろうとするものです。「MACC通信」は、「MACCプロジェクト」に関わるホットな情報をお届けしていきます。また今年度より区の組織改正で「産業活性化係」を新設し、MACCの担当セクションの強化を図りました。今後もより幅広く充実した企業支援を目指していきます。

今回は、「第7回健康福祉ビジネス研究会」（4月14日開催）、戦略実践セミナー「顧客と用途の明確化で高収益を狙える戦略立法」（5月20日開催）等についてご紹介します。

第7回健康福祉ビジネス研究会を開催

～利用者と介助者にやさしい福祉用具～

平成23年4月14日（木）に「健康福祉ビジネス研究会」（略称：健ビ研）を開催しました。

4月より産業経済部経営支援課に着任した、三枝(さえぐさ)経営支援課長と白田(はくだ)産業活性化係長の挨拶に引き続き、今回は、「利用者と介助者にやさしい福祉用具」と題し、MACCに新規入会された株式会社白興様の本社を訪問し、ご講演とレンタル頻度の高い福祉用具についてご紹介いただきました。



経営支援課長 三枝直樹



産業活性化係長 白田忠男

【第一部 講演】

講師：株式会社白興

介護用品事業部 課長 城之内 淳 氏

弊社は、クリーニング事業から始まった会社で、昭和36年に個人営業の白光ランドリーを資本金100万円の株式組織とし、現在では「リネンサプライ」、「ユニフォームレンタル」、「羽毛布団のリース・福祉用具貸与・販売」の事業を行っています。介護事業は



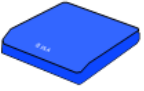

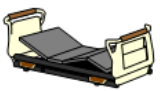









株式会社白興
介護用品事業部課長
城之内 淳 氏






平成16年4月から開始しました。

既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、現在介護保険が利用できる福祉用具についてご説明させていただきます。

心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障がある人は、生活支援のための福祉用具を借りることができます。他の利用者との使い回しができる用具が中心で、自己負担1割で福祉用具をレンタルすることができます。その12品目は次の通りです。品目は国が決めますが、個別商品の認定は各自治体で行うため、認定品目に該当しても、すべての商品が認められるわけではなく、自治体によって認められている場合とそうでない場合があります。

形	名称	説明	形	名称	説明
	車いす	自走用標準型車いす、普通型電動車いす又は、介助用標準車いすに限る。		手すり	取付けに際し工事を伴わないものに限る。
	車いす付属品	クッション、電動補助装置等であって、車いすと一体的に使用されるものに限る。		スロープ	段差解消のためのものであって、取付けに際し工事を伴わないものに限る。
	特殊寝台	サイドレールが取付けてあるもの又は取付けることが可能なものであって、次に掲げる機能のいずれかを有するもの。 ・背部又は脚部の傾斜角度が調整できる機能 ・床板の高さが無段階に調整できる機能		認知症老人徘徊感知機器	介護保険法第7条15項に規定する認知症である老人が屋外へ出ようとした時、センサーにより感知し、家族、隣人等へ通報するもの。
	特殊寝台付属品	マットレス、サイドレール等であって、特殊寝台と一体的に使用されるものに限る。 ※利用することにより当該特殊寝台の利用効果の増進に役立つものに限られる		歩行補助つえ	松葉づえ、カナディアン・クラッチ、ロフストランド・クラッチ、プラットホームクラッチ及び多点杖に限る。
	床ずれ防止用具	次のいずれかに該当するものに限る ・送風装置又は空気圧縮装置を備えた空気マット ・減圧による耐圧分散効果をもつ全身用のマット		移動用リフト	床走行式、固定式又は据置式であり、かつ、身体をつり上げ又は体重を支える構造を有するものであって、その構造により、自力での移動が困難な者の移動を補助する機能を有するもの。
	体位変換器	空気パッド等を身体の下に挿入することにより、居宅要介護者等の体位を容易に変換できる機能を有するものに限る、体位の保持のみを目的とするものを除く。		歩行器	歩行が困難な者の歩行機能を補う機能を有し、移動時に体重を支える機能を有するものであって、次のいずれかに該当するものに限る。 ・車輪を有するものにおいて、体の前及び左右を囲む取っ手を有するもの ・四脚を有するものにおいて、上肢で保持して移動させることが可能なもの

同様に、心身の機能が低下した人に、入浴や排泄などに用いる用具の購入費が支給されます。要介護の程度にかかわらず、1年間（4月から翌年3月の期間）に10万円を限度とし、実際にかかった費用の9割が支給されます。その5品目は次の通りです。これらの個別の商品の認定も各自治体で行います。

形	名称	説明	形	名称	説明
	腰掛便座	次のいずれかに該当するものに限る 簡易設置型洋式トイレ 和式便器の上において腰掛式に変換するもの 補高便座 洋式便器の上に置いて高さを補うもの 昇降機能付き便座 電動式又はスプリング式で前座から立ち上がる際に補助できる機能を有しているもの。 ポータブルトイレ 便座、バケツ等からなり、移動可能である便器（居室において利用可能であるものに限る）		特殊尿器	尿が自動的に吸引されるもので居宅要介護者等又はその介護を行うものが容易に使用できるもの。
				簡易浴槽	空気式又は折りたたみ式等で容易に移動できるものであって、取水又は排水のために工事を伴わないもの。 (硬質の材質であっても使用しないときに立て掛けること等により収納できるものを含むものであり、また、居室において必要があれば入浴が可能なものに限られる。)
	入浴補助用具	座位の保持、浴槽への出入り等の入浴に際しての補助を目的とする用具。 次のいずれかに該当するものに限る。 ・入浴用いす ・浴槽内いす(浴槽台) ・浴槽内手すり ・移乗台 ・すのこ ・入浴用介助ベルト		電動用リフトのつり具の部分	身体に適合するもので、移動用リフトに連結可能なものであること。

弊社では、MACC会員の皆さまとご一緒に新商品を開発できればと思っています。ご要望があればご協力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

講師：パラマウントベッド株式会社

ホームケア課 戸村 圭太 氏

弊社は、昭和22年に病院用ベッドの再生を手がけたことから木村寝台製作所を創業し、昭和25年には木村寝台工業株式会社を設立すると同時に、ブランド名を「パラマウントベッド」に改名しました。文字どおりのベッドの製造・販売会社です。



パラマウントベッド株式会社
ホームケア課 戸村 圭太 氏

今日ではユニバーサルデザインとして広く一般に知られている『どなたでも使いやすい』製品の提供をモットーに、その後、高齢化の進展を背景として、高齢者施設や在宅介護分野にも事業領域を拡大しながら、さまざまな製品を開発してきました。

それでは、新商品開発のヒントになる、介護ベッドの事故事例及びその対策についてご説明します。

平成19年5月～平成22年8月の期間において、介護ベッド周りの事故では、挟み込みによる事故が最も多く、次いで、転倒・転落による事故が多く起こりました。重症・死亡事故となった主な事例を挙げると、挟み込みによる事故では、サイドレールの中に頭・腕や足が入った事故が15件、サイドレールとサイドレールの隙間に首が挟まった事故が5件、サイドレールとボードの隙間に首が挟まった事故が4件、他にもサイドレールとマットやベッドフレームの間に挟

まり重症を負った事故が3件ありました。その原因は、種類の異なるサイドレールの組合せ、サイドレールの差込みの向きの誤り、サイドレールの形状そのもの等が挙げられます。また、転倒・転落による事故では、着衣がベッド用グリップの固定レバーに引っかかり窒息により死亡した事故と、首振りの固定レバーが外れ転倒・骨折した事故がそれぞれ3件です。その原因は、介助バーロック固定レバーの磨耗や介助バー自体の固定不足が挙げられます。

介護用品では、現在ベッドと車いす（手動及び電動）が、JIS規格に認証されています。国は、消費生活用製品安全法に基づく事故報告への対策として、平成21年4月のJIS規格の改正を行い、最重要事項に「首の挟みこみ対策」、重要事項に「衣類の絡みつくリスクへの対策」及び「ベッド用手すり（介助バー）の基本性能」が記載されました。これらを受け、弊社では「楽匠Sシリーズ」を開発するとともに、その他既存製品においても安全面に対策を施しています。



【第二部 レンタル頻度の高い福祉用具の紹介】

新商品開発のために、実際に取り扱っている福祉用具について、使用場面と取扱方法、各々の製品の優れた点などについて社員の方々からご説明いただき、一部の製品ではモニターとなった見学者から、数多くの質問があり、意見交換も活発に行われました。

福祉用具の説明を受ける会員



介護用ベッド「楽匠Sシリーズ」



歩行器



立ち上り棒(中央)

あすめし会 近況報告

平成23年4月13日(水)、5月12日(木)、6月9日(木)に行われました、あすめし会例会についてご報告いたします。

昨年あすめし会で行ったクロスSWOT分析に基づいて、あすめし会会員企業各社に「クロスSWOT分析活用による各社の新事業・新商品開発」という課題で新事業・新商品のアイデアについてプレゼンテーションをしていただきました。新しいアイデアはなかなか出てこないものですが、各社苦勞しながらも知恵を絞ってアイデアをひねり出したようです。プレゼンテーションの後に質疑応答・積極的な意見交換を行い、大変白熱した議論が交わされました。

その後、豊泉シニアコーディネータが「新商品・



新事業開発の成功ポイント」という講義を3回シリーズで行いました。講義では商品開発の手順というテーマで話がありました。「アイデアの収集・創出」→「アイデアのスクリーニング」→「製品コンセプトの開発」→「マーケティング戦略の開発」→「経済性分析」→「製品化」→「テスト・マーケティング」という商品開発手順についての講義では、「アイデアの収集・創出」について特に詳しい話があり、参加企業も興味を持って聞き入っていました。

また近年、消費者の購買性向が『モノ』を得ることから『意味(ベネフィット・効用)』を求めるように変化しているため、消費者の心の中のどこにその商品が位置づけられているかという“商品のポジショニング”を決定する「製品コンセプトの開発」の重要性について、製品コンセプト設定の成功例を交えながら述べられました。

戦略実践セミナー 「顧客と用途の明確化で高収益を狙える戦略立法」を開催

区内事業の経営革新や経営力向上を目的とした荒川区主催の戦略実践セミナーが、5月20日(金)産業経済部研修室において開催され、志村勉氏(山形大学工学部荒川サテライト長・山形大学大学院教授)の講義のもと、企業を高収益に導くための実践的な戦略を学びました。

～戦略とは?～

そもそも「戦略」とは何のために作るのでしょうか?いきなり戦略を作ろうとしてしまう人がいますが、それは大きな間違いです。まず明確な目的がなければいけません。ビジネスで言えば事業の目的です。何のために自分たちは社会に存在するのか?何を持って社会に貢献するのかと言う社会的な使命であり、会社で言えば経営理念です。

その目的を決めたら次は具体的な目標を設定しなければなりません。そしてそれを評価できることが条件になります。“なんとなく売れた!”では駄目。“いくつ売れた。どれだけお客さんに喜んで



山形大学大学院 志村教授

らえた”といった具体的な評価ができる目標が必要です。これがセットでなければなりません。そしてその目標をどうすれば実現できるのかこそが作るのが「戦略」です。

～顧客を決め、顧客を知ることの重要性～

戦略づくりではまず戦略ターゲット(顧客)を具体的に定めます。顧客を知ると言うことはビジネスにおいて極めて大切なことです。

顧客の気持ちを理解し、気持ちに働きかける価値を磨く事が、魅力ある商品作りに繋がるのです。

徹底した顧客視点、自社の商品を機能や技術だけで考えるのではなく、顧客の価値で考える。自社製品を通じて顧客を見るのではなく、顧客の視点で商



品と自社を見る事が重要です。顧客は製品を選ぶ時点で、競合製品を見比べます。そして決定的に何か違うところのある製品を選びます。つまり「～だから買う」と思わせることです。顧客と同じように考え、自分を顧客の立場に置く。「顧客のために考える」と「顧客の気持ちで考えること」は似て非なるものなのです。そしてお客さんをどうやってハッピーにするか？その中に何を際立たせるかを決めて“大きく利益を出しましょう”というのがマーケティングです。

～マーケティングミックス～

一般にマーケティングの「4P」と言われています。4Pとは“Product(商品戦略)”：どんな商品に磨くか？“Price(価格戦略)”：いくらで売るのが適切か？(安ければ良いと言うものではありません。なぜならば価格を下げるということは商品の価値が低いと言っているようなものだからです。)“Place(チャンネル戦略)”：どこで売ることか？“Promotion(広告戦略・営業戦略)”：どうやって顧客に魅力を伝えるか？(商品情報のみを伝えるのではなく、商品の魅力を伝えることが重要です。)

この4点が、マーケティングミックスと呼ばれています。重要なのは一つの戦略ターゲットに一つの4Pが設定されるということです。当然ターゲットが変わればそれぞれに応じた4Pが存在するため、ターゲットの設定も極めて重要な要素となります。

またターゲットの分類は、統計的に分類できる属性(年齢・性別・所得・職業・地域・家族構成等、企

業であれば規模・業界・業種・経営状況等)と価値観や嗜好で分類できる属性(ブランド品を好む・個人的・健康志向・謙虚等、企業であれば企業文化、経営理念、価値観等)、そして属性だけではなく顧客の状況や用途(どんな用事に使うのか・どのような時に、どのように使うのか?等)で分類できます。

～KFS(Key Factor for Success)～

KFSとは「他社を圧倒できる何か」「客が何かを目指している時にこの店にしか行かなくなるような理由をつくること」です。そしてKFSは最初から「こうあるべきである！」と自分で作り込むものです。

「後で考えるとあの成功はこうだったね！」というものはKFSとは言いません。明確なイメージや顧客に対してのメッセージを作り上げ、KFSを決めたら、全社員が信じてこれに最大のエネルギーを投じなければなりません。

KFS(Key Factor for Success)

ビジネスを成功させる要因

- ・事業戦略を立案する上で、必ず押さえておく必要がある。
- ・既往のビジネスとは大きく異なる要素が必要で、ここに最大規模のエネルギーを注ぐ。
- ・全く異なるビジネスでも、形態が似ているようなビジネスのKFSはヒントになる場合が多い。

今後、山形大学としてもいろいろなテーマを提供していきたいと思っております。23区の中で一番産業が元気な街”荒川区”を目指して皆さん一緒にやってみましょう！本日はお疲れ様でした。

新連載～その1～

牛山博文の 毛～ひと工夫！

MACCコーディネータは、今年度新たに1名増員し4名体制となり、さらにきめ細かい企業支援を目指していきます。このコーナーでは、新コーディネータの牛山博文氏による生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を連載で皆さんにお伝えしていきます。



MACCコーディネータ 牛山博文

皆様、はじめまして。4月から新たにMACCコーディネータとして就任しました牛山博文です。よろしくお祈りします！

私は大学で航空宇宙工学を学んだ後、東京都多摩

地区にある半導体製造装置メーカーに就職しました。

社会人として初めての仕事は、「装置の組み立て手順や調整手順を統一する要領書を作る」というも

のでした。当時半導体は“産業の米”と呼ばれ、市場規模は年々大きくなっていった時代です。そのため新卒者や中途採用者の新人教育用の資料作りが急務となっていたのです。実際、入社2年目にはそうした新人たちが大勢入社してきて、製造要領書類は新人教育用資料として大いに役に立ちました。その後生産技術部門に移り、製造要領書を作る仕事に加えて生産技術を担当することになりました。半導体製造装置の製造には「真空技術」が不可欠な技術です。生産技術ではこの真空技術をベースとした各種材料の表面処理技術開発や品質管理（VE・VA）の支援業務に携わりました。

VE(Value Engineering)/VA(Value Analysis)とは顧客の満足を得るために、求められる機能と、かかるコストを適切に管理し、価値の向上を達成する取り組み。

その後、生産管理マネージャーとして年売上600億円規模の生産管理全般を担当した後、大学院で技術経営学（MOT）を学び現在は経営コンサルタントとして中小企業やベンチャー企業の経営支援を行っております。

今まで得た知識や経験を活かし、MACCコーディネータとして荒川区のものづくり企業の皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

～生産設備改善支援の現場～

さて、私は21年度から高度特定分野専門家として荒川区内の企業を支援してまいりました。今回はその中で生産設備改善の支援を行った時の話をさせていただきます。

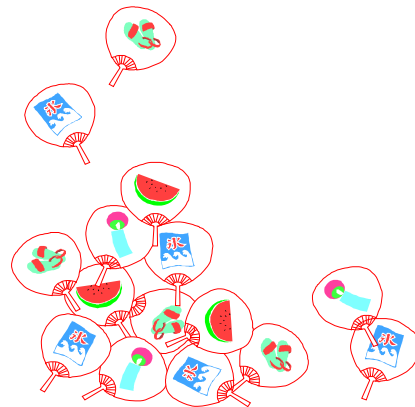
その企業は服飾関係企業で使われる備品を製作している会社でした。量産製品のほとんどを中国で生産していますが、多品種・少量生産に対応するため日本の工場でも同様な製品を生産しています。日本の工場では多品種を生産するため製品ごとに段取り換え作業が必要になります。現状ではこの段取り換え作業に半日かかり、生産性が悪いので改善してほしいとのことでした。

さっそく埼玉県にある生産工場を訪問し、生産設備の見学と段取り換え作業の説明を受けました。生産設備は導入後かなりの年数が経っているもので、段取り換えは熟練したベテラン作業員の一人しか作

業できないとのことでした。生産設備を見ながらお話を伺うと、段取りに時間がかかっている理由が段々とわかってきました。段取り換えのために設備を微調整しなければなりません、この調整作業のための基準点が無いか、有っても機能せず、作業者は長年の経験と勘で四苦八苦しながら調整していたことがわかったのです。そこで調整のための基準点を設備に追加設置する改造仕様書を作りました。

その後MACCコーディネータの紹介で生産設備を製造する会社を紹介してもらい、仕様書を元に詳細設計と装置の改造をお願いしました。この改造で難しかった調整が簡単にできるようになり、段取り時間は半日から15分へと驚くほどに短縮することができました。また、今まで特定の熟練者しか行えなかった段取り作業が誰でも行えるようになったのです。

以上は設備の調整部分に基準点を設けることで作業を標準化し、新たな設備投資をしなくて古い機械を活用することができた事例です。新たな設備投資をせず古い機械の機能を強化することや全体の作業工程を見直すことで、大きな改善効果がある場合もあります。生産工程改善は私の得意分野です。何かありましたら是非ご連絡頂きたいと思います。よろしくごお願い申し上げます。



<発行>

荒川区産業経済部経営支援課

MACCプロジェクト事務局

〒116-0002

東京都荒川区荒川2-1-5 セントラル荒川ビル3階

TEL:03-3803-2311 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

URL:http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/